

第6回 昭島市男女共同参画推進委員会

議事要旨

[日 時] 令和7年8月6日（水）18:30～20:30

[場 所] アキシマエンシス校舎棟 男女共同参画センター

[出席者]

1 委員： 金野美奈子委員長、柴田邦臣副委員長、上川純子委員、長谷部高史委員、牧野愛子委員、向井翔兵委員、

欠席委員：定森夏子委員、森川民子委員

2 事務局：滝瀬子ども家庭部長、吉田男女共同参画・女性活躍支援担当課長、渡邊男女共同参画センター担当係長

3 傍聴者 0名

[配付資料]

・令和6年度進捗状況委員評価及び意見一覧（目標III、IV）

[議事要旨]

1 開会

資料の確認

2 議題

（1）男女共同参画プラン令和6年度進捗状況調査結果について

◇前回会議にて、質問があったNo.28 職員課の令和6年度介護休業数は、2ヶ月を超え、3ヶ月以下の介護休業の取得者は1名（女性職員）との回答であった。

☆質問はあるか。続けて説明願う。【金野委員長】

目標3 あらゆる暴力の根絶と被害者支援【昭島市配偶者暴力対策基本計画】

7 配偶者等からの暴力（DV）の防止及び被害者支援の充実

①暴力の未然防止・早期発見

No.37：配偶者等からの暴力防止のための広報・啓発【男女共同参画】

暴力による支配は犯罪行為をも含む重大な人権侵害であり、被害者の自信喪失や自己評価の低下等を生じさせ、被害者であること自体を自覚することが難しい場合がある。

様々なツールを利用した広報に努め、また「大人のアンガーマネジメント講座」を開催することにより、加害行為を未然に防止する観点から実施。

委員より質問があった市内では配偶者暴力案件は減少しているか？との問い合わせ、東京都内の警察においてDVに関する相談は増加傾向、市内においての数は非公表。

No.38：家庭・地域・学校における人権教育・暴力を容認しない意識づくりの推進【男女共同参画】

「スポーツ指導のリスクマネジメント講座」を開催し、スポーツ指導の面からも人権に繋がる啓発ができた。「指導の際、否定語より肯定語の方が受け入れられる」ということが参考になった。

相手の感情が「叱る」を決めるということが勉強になりました。」等の感想もあり好評。

委員より質問があったスポーツ指導、児童への暴力行為については、詳細な数字は押さえていない。

児童虐待の相談件数は、令和5年度よりも令和6年度は減少。

8 あらゆる暴力に対する相談支援・関係機関の連携・防止啓発の推進

①性犯罪及びストーカー被害等の暴力防止の啓発・相談支援

No.46：性暴力及びストーカー被害等の暴力防止の広報・啓発【秘書課】

委員より質問があった、電話相談やアクセス数の件数を、実施している東京法務局に担当課より確認、相談件数やアクセス数は非公表の回答あり。

No.46：【男女共同参画】

令和6年度より市公式ホームページに「DV（ドメスティックバイオレンス）とは？」の説明ページを新たに掲載し、広く理解を促進。そのため評価を上昇。

委員より掲載箇所が分かりにくいと意見もあり、今後検討。

②ハラスメント防止のための啓発・相談支援

No.48：ハラスメント防止に関する広報・啓発の促進【男女共同参画】

関連するセミナーを2回開催し、ハラスメントを誘引する手前での気づきや注意点について広く啓発できたため、評価を上昇。

No.49：ハラスメント被害者に対する相談支援の充実【秘書課】

質問があったc評価の理由は、「人権身の上相談」の中でハラスメントの相談がなかったためとの回答あり。

以上のことから資料4②の項目は、点数合計が、令和5年度の16から17に増加。

目標4 すべての人が安全・安心に暮らせるまちづくり

9 生涯にわたる男女の健康の包括的な支援

①リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）についての理解の促進

No.51：リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する啓発及び情報提供【秘書課】

新たに独自にリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関するチラシを作成、人権パネル展にて掲示及び配布。c評価からb評価に上昇。

のことから資料4①の項目は、点数合計が令和5年度の11から12に増加。

②年代や性差に応じた健康づくりの支援

No.55：女性に対する検診（がん検診）事業の充実【健康課】

質問があった「人数に条件を設けると、全ての希望者に受診していただくことができなくなるのではないか。」との問い合わせについて、予算の関係上、上限が生じるが、受診を希望する全ての希望者が受診できるよう予算額を設定している。

③こころの健康に関する支援

No.58：こころの健康に関する相談支援の充実【健康課】

相談件数等の報告となっているが、令和6年度末に昭島市自殺対策計画が策定され「子ども・若者を対象として自殺対策の推進」「多様な価値観に配慮した自殺対策の推進」を重点施策と定めて、各関係機関等と協力し計画が推進される予定。

10配慮を必要とする人に対する支援と多様性を尊重する環境の整備 (NEW)

①高齢・障害等により配慮を必要とする人に対する相談支援

No.59：高齢者への各種相談支援の充実【健康課】

委員より質問があった、「生活習慣病も年齢が低くなる傾向であるか」について、市にはデータは無いが、国や学会等のデータによると20歳以上の各年齢層において、高血圧、糖尿病、脂質異常症において、どの年代も増加傾向で、若年齢化している記事もあるためご指摘のとおりと解釈している、と回答あり。

②ひとり親家庭等への支援の充実

No.61：ひとり親家庭等への各種相談及び支援の充実【子ども未来課】

資料2のとおり、令和6年度子ども家庭部の組織改正があり、以前の子ども子育て支援課の業務と子ども育成課の業務が統合され、事業が一つ減少。

No.63：生活困窮世帯等の子どもへの支援【子ども未来課】

令和5年度までは新型コロナや物価高騰に対する給付金等を実施していたが、令和6年度からは給付金支給を行っていないため、事業は廃止。令和6年度は廃止項目として記載、令和7年度からは削除。

以上の事から資料4②の項目は、点数合計が令和5年度の26から21に減少。

11防災・環境分野等のまちづくりにおける多様な視点の反映

①防災・復興体制のまちづくりにおける女性参画の推進

No.64：防災分野における女性参画の推進【防災安全課】

令和5年度に地域防災計画の修正が完了し、令和6年度において防災会議は開催されず、評価を下降。委員の女性割合は上昇、今後も女性からの視点について会議開催の中で検討予定。資料4①の項目は、点数が令和5年度の3から2に減少となった。

②地域防災活動における男女共同参画の推進

No.65：避難施設・物資の運営における女性の参画【福祉総務課】

避難行動要支援者個別支援計画の策定に向けた府内検討委員会を実施し、計画作成に着手したことから、評価を上昇。

このことから資料4②の項目は、点数合計が令和5年度の2から3に増加。

12地域活動における男女共同参画の推進

①地域団体・社会団体等への活動支援

No.67：地域活動に関する相談及び情報提供の充実【生活コミュニティ課】

市内で活動する団体の情報やグループ活動に役立つ情報を掲載する「まちの活動」という一覧ページを市公式ホームページに新設、評価を上昇。

No.68：地域団体のネットワーク作りや支援体制の充実【生活コミュニティ課】

令和5年度は未開催であった、生活コミュニティ課、社会教育課、市民会館公民館、介護福祉課、地域福祉コーディネーターの6部署での意見交換会に、健康課が加わり、年度内に3回開催。より幅広い情報交換ができたため、評価を上昇。

以上の事から、資料4①の項目は、点数合計が令和5年度の4から6に増加。

②地域活動等への男性の参画の推進

No.69：地域活動への関心を高めるための支援【生活コミュニティ課】

No.67と同様の理由から評価を上昇。

No.70：地域活動、ボランティア、NPO等の情報提供【生活コミュニティ課】

No.68と同様の理由から評価を上昇。

以上の事から、資料4②の項目は、点数合計が令和5年度の13から15に増加。

資料4及び資料5

目標IIIの事業数は変動無し。評価aが1個増加し、評価bが1個減少、資料4での評価点数合計は1点増加。

目標IVにおいては、事業数が2つ減少、評価bが2個増加し、評価cが4個減少、評価点数合計は変わらない結果。

(2) 男女共同参画プラン目標III、IVの評価について

目標III 7配偶者等からの暴力（DV）の防止及び被害者支援の充実★重点施策

① 暴力の未然防止・早期発見

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	優	優	優	優	優	優

☆具体的な数字は、プライバシーに配慮して公表していない。コメントの中で長谷部委員から新たな課題について提言あり。説明よろしいか。【金野委員長】

◆先月、昭島市の市中P（中学校PTA連絡協議会）があり、各学校のPTA役員の方、会長副会長と、中学校から副校長が参加し情報共有した。今後の課題となるような話題となった。立川市で保護者から教員への暴力事件と、全国的なニュースで先生による盗撮事件があり、どのように防いでいくか。すぐに対策をとったとしても、完全に防ぐことはできないだろうという話になつたが、例えば防犯カメラを設置する等何か対策をしたとしても、盗撮に関しては、カメラ自体が小型化しており、そもそも生徒間同士でそのようなことが行われたら防ぎようがない。具体的にこうした方が良いというのでは出なかつたが、PTAをはじめ保護者から心配の声も伺つた。今後、家庭地域学校も含まれているので、課題に挙がつてくる。【長谷部委員】

☆38番の暴力を容認しない意識づくりであるか。学校でも生徒に向かって「暴力をしないようにしましょう。」というだけでは済まないという状況なのであろう。今後の課題として取り上げていただきたい。

【金野委員長】

☆評価の決定： 優 【金野委員長】

②若年層への意識啓発と教育の推進

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	優	優	良	良	良	良

☆委員からの評価は良が4名、優が2名。特に事業39番男女共同参画がbで、それを勘案されたというところか。課題と今後の予定にもあるが、引き継ぎ啓発に努めるという事で、啓発活動を広げる余地があると感じた評価でよろしいか。【金野委員長】

◆コンビニエンスストアからの協力を得られたが、もっと民間の協力が得られるのではと考えた評価である。コンビニエンスストアで何件か協力を得られた店舗もあったが、会社の方針で貼れないという店舗もあった。同じコンビニであっても、対応が異なる状況があったが毎年お願いし、貼っていただける店舗も探している。加えて新たなこともできるのではと考える。【事務局】

☆問題自体が広がっている、無くなっているなどを伺わせるような相談はあるか。【金野委員長】

◇相談自体については、若年層という事もあり、男女共同参画センターだけではなく、おそらくこども家庭センターにおいても相談が入っていると思う。JKビジネスまでの話というのはこの辺りではまだ聞かない部分がある。デートDVについて、どんなところが暴力になるのかという啓発を継続的に行っていかなければならない。予防として実施していく。若年層に届いているのか、その反応が、まだ手応え的なものがないので、今後の課題。【事務局】

◆推進の広報について市内で見た。コンビニ等で見た際には、掲示してある店とそうでない店があったが、直営やフランチャイズで分かれ、またオーナーの判断にもよるかと思う。【向井委員】

☆上川委員いかがか。【金野委員長】

◆声に出すことが難しい内容と思われるので、ポスターの掲示等を多く活用してほしい。【上川委員】

☆定森委員からはホームページの掲載箇所がわかりにくくないとあったがいかがか。現在は男女共同参画の下に入っているのか。【金野委員長】

◇別の場所になっている。以前組織が別であり、男女共同参画の方は企画部門にあり、DVの担当は子ども関係の支援の方に部署があった。現在の組織は一緒だが、ホームページの構造上から現在一緒になっていない。ホームページの改定があることも聞いていたため、改善していきたい。【事務局】

☆ぜひ改善をお願いしたい。【金野委員長】

☆評価の決定：良 【金野委員長】

③配偶者等からの暴力などによる被害者の安全確保と自立支援

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	良	優	優	優	優	優

☆優の委員が5名、良が1名、いかがか。向井委員から事案件数自体は高い水準の印象とのことだが、担当課の事案件数か。【金野委員長】

◆41番の介護福祉課。安否確認、虐待通報の受付件数、令和4年度から減少。また、42番男女共同参画DV等相談件数も同様。【向井委員】

☆周知を進めていただきたい。【金野委員長】

◆40番に関して、実際に利用された方の声を聞くことがあり、親身に相談に乗っていただいて助かったとのことだった。重要な取り組みであり、しっかりと対応しているということを評価しようと思ったが、先ほど向井委員からも42番で相談件数が減っているという部分を、目標の指標が配偶者から暴力を受けている人の中で「相談した」ことがある人の割合である。暴力自体が減少なら良いが、相談件数が減り、母数が変わっていないと、割合としては下がってしまうのではないか。目標値を設定している中で、数值が下がるので、気になるので良とした。【長谷部委員】

☆確かに相談件数の減少ということ実態自体が減っているということなのか、それとも実態は変わらないで、何らかの原因で相談しにくくなっているというのか。数字からだけではどちらの可能性もある。【金野委員長】

◆そこがわからなかつたので、評価を一つ下げた。【長谷部委員】

☆実際窓口での感触はいかが。【金野委員長】

◇一番難しいところである。相談件数が減ったから平和になったということではなく、相談体制を維持していることが大切かと思う。減ってきたということは、暴力がなくなってきたという、良い面もあれば、逆に声を上げられない方がいるということが隠れていると一番困る。先ほどホームページが見にくく場所にあることであったが、DVについてのホームページを昨年度遅ればせながら掲出した。どういうことがDVなのかをまず分かってもらう。その時にどのような相談場所があるのか。相談場所を多く記載しているので、見ていただき、今後どのようになってくるのか、男女共同参画としては、D

Ｖが起こらないような啓発をし、相談体制は維持したいという、数値では測れないところかと思う。体制はしっかりとしているので、担当課評価はaという形にはさせていただいた。【事務局】

☆引き続き注心いただきたい。【金野委員長】

☆評価の決定： 優【金野委員長】

④被害者の安全確保のための関係機関の連携

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	優	優	優	優	優	優

☆対外的には効果が見えにくいという意見や、各関係機関等の連携が図られた。【金野委員長】

☆評価の決定： 優【金野委員長】

8 あらゆる暴力に対する相談支援・関係機関の連携・防止啓発の推進

① 性犯罪及びストーカー被害等の暴力防止の啓発・相談支援

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	良	優	優	優	優	優

☆秘書課の方では先ほどもあったが、数字の質問、出していない回答であった。定森委員からは情報掲載のホームページについて意見があった。秘書課でも「女性の人権ホットライン強化週間」を呼び掛けているが、優で良いか。【金野委員長】

★上川委員の46番秘書課のアクセス数とはWebのことか。【柴田副委員長】

◆その通りである。強化週間を設けているとあったのでどのくらい件数があるのかと思ったが、公表しないを承知した。【上川委員】

★市のアクセス数ではなく、東京都と確認した。【柴田副委員長】

☆評価の決定： 優【金野委員長】

② ハラスメント防止のための啓発・相談支援

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	良	優	良	良	良	良

☆共通して秘書課のcの部分で、なぜという質問に、回答は相談事案が無かったためとあるが、理由をもう少し掘り下げるとはできないか。何か秘書課から説明はあったか。なぜ相談件数が増えないのか。【金野委員長】

◇そこまでの説明はなかった。報告書を最後にまとめた際には、周知方法や書き方も含めこちらから話をする。【事務局】

◆cにしているのは、目標や設定値が届いていない。表に記載されている課題や今後の予定も秘書課は不透明。例えば人権がすごく侵害されていると感じている方が少なくて、この件数であればcではないと見る。秘書課がどこを目指しているか見えにくい。一つ前の項目も秘書課は、東京都に繋ぐことが役目であれば、10件相談があって10件東京都に繋ぎましたということは良いとなる。本当の目指している姿を具体的に現し、何が足りないのかを書かないと評価できない。人権というかなり広い枠なので、相談が少ない可能性もある。例えば暴力とかストーカーとか、ハラスメントとか、細分化している方が相談しやすいのか。人

権というと逆に何でも良いのであろうが、何かされたときに人権侵害と思う人はなかなかいない。このままcにしておくよりも目指すものはこういうものであり、そしてここが足りないと言ってもらった方がわかりやすい。ただ、優にしたのは、ジャッジしにくいため担当課評価を信じる以外ないから。評価点数合計が81%ということなので優にした。【牧野委員】

☆「相談件数そのものが少ない中で、さらにハラスメント相談がありませんでした」という事にどの位の意味があるかということは確かにある。人権相談は、どのようなことが相談できるのか、とりあえず何でも

相談して良い形なのか、それとも、ハラスメントについてもとアナウンスしているのか、【金野委員長】
◇相談を受けるのは人権擁護委員であるとPRしているが、相談内容を具体的にした方が良いのかもしれない。また、推進委員会での意見について秘書課への伝え方も事務局で工夫する。【事務局】

◆担当課評価cを付け、事業が出来ていないと考えるならば、これからどうするか。相談件数が多ければ良いと思っているわけではない。cをaにするのがこの会議であるはず。また、現状で良いと思っているならばaを付けて良い。人権身の上相談を市民が認知しておらず、来るべき方が来ていない判断なのか。それならば何をするのか。そもそもどこを目指しているのか。また、全相談件数が4、5件の中のハラスメント相談という事である。わかりづらい。【牧野委員】

☆引き続き伝えていただきたい。【金野委員長】

◆会議において、報告書に記載されている内容の部分だけを評価していくのか。記載の内容の中でも見えないところを推測していくのか。その前の段階で、整っているところに評価をしていかなければならないにも関わらず、記載の内容は各課縦割りである。先ほどの、男女共同参画の中では、相談件数と分母の関係の中で体制はしっかりと取れているからaにしている、という課もあれば、単純に件数で評価している課もある。「相談件数がなかったからc評価となっているのでしょうか」という質問で、「そうです」と回答するのは違う。秘書課が悪いということではなく、全体で統一性がない。評価軸が課によってずれてしまうと評価をしていく側としては判断がしづらい。推測では評価ができない。担当者評価の部分や、今後の課題の箇所に記載されている内容の中しか評価できないので、せっかく事業を実施しているのにその部分がもったいない。毎年委員会委員の中から意見が上がっているが、改善がされていない。【向井委員】

☆評価の決定： 良【金野委員長】

目標IVすべての人が安全・安心に暮らせるまちづくり

9生涯にわたる男女の健康の包括的な支援★重点施策

①リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）についての理解の促進

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	良	優	優	優	良	良

☆補足等あるか。委員からは、着実に取り組みが進められている等の意見があった。新しい取組も進めており、新たにチラシやポスターの作成もあった。【金野委員長】

◆担当者評価が80%で委員会の判断の分かれる。担当者評価をbにしている課の表記で確認すると秘書課は、啓発することができていると記載し、52番の指導課は確実に実施することができた、ということでbと記載。内容的にはaに近いbなのかということで、私は優にし、その部分を重視した。【向井委員】

★上川委員のご意見の「正しく理解していただくために年齢層が低くなる傾向なのでしょうか。」というのを事務局への質問か。【柴田副委員長】

◆そうである。【上川委員】

◇正しい理解を進めるため、その裾野を広げる。若年層から始めていけば将来的に広がっていくというところはある。ただ年齢層が高い方についても、理解は深めていただきたい。ただ、年齢を重ねた方に興味を持つてもらうということが一番難しいところであり、手法をいろいろ変えながら考えていきたい。【事務局】

★裾野を広げていくということである。次に長谷部委員が、「着実に進めている」と記載しているが b の評価である。いかがか。【柴田副委員長】

◆こここの取り組みは、数年位前までは、ほとんど何もなされていなかった記憶があり、ずっと可をつけていた。昨年あたりから少し取り組みが進められ始め、今年も一歩進んだ感じがある。そのため、「着実に進められている」という記載になったが、実は優と良の狭間で迷った。去年今年と実施されてきたので、来年もう少し期待できるかなという形でちょっと伸びしろを残したい。来年優をつけたいという形で残した。

【長谷部委員】

★確かにこここの項目は、全く上手く進んでいなかった。どういう形であれば良いのか迷っているところがある中で、現在着実に進められていることは事実だと思う。しかし、この問題は、事務局からも案内があつたように、幅広くみんなで理解を進めていくという長い射程で考える必要があると思う。だからこそ、あまり早急に成果を求めず、着実に進めるということが大事だということを私も考え、良の評価としたい。来年優を是非つけたいと思うので、よろしくお願ひする。【柴田副委員長】

☆さらに、上を期待しているということである。【金野委員長】

☆評価の決定：良【金野委員長】

②年代や性差に応じた健康づくりの支援

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	優	優	優	優	優	優

◆全ての方が受診できれば上限設定の文言が必要かと疑問に思った。文言上に齟齬を感じたので、質問した。

【長谷部委員】

◇何人までという枠は予算上作っている。【事務局】

☆それでも、それ以上の人人が来た場合、対応できるような予算になっているのか。【金野委員長】

◇予算上はどうしても何人×いくらという形で出していかなければならない。その人数としては例年の受診数の傾向等をみながら、希望される方が受けられるような人数設定はしている。人数の上限はあるということである。【事務局】

◆仮に、例年希望されていなかった方が全員来た場合でも、それは受診可能なのか。おそらく今までのデータ・傾向でこれ位受診するであろうという数字にプラスアルファーで上限設定していると思うが、今まで受けていない方々が今年は全員希望しますというと極論だが、その場合でも受けられるのか。【長谷部委員】

◇ 受けられるように、処置をすることである。【事務局】

☆ また、そもそも健康意識が高くない層をどうするかという話が去年もあり、より根本的な話であったが、引き続き推進していただきたい。【金野委員長】

☆評価の決定： 優【金野委員長】

③こころの健康に関する支援

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	良	優	優	優	優	優

◇令和6年度末に、昭島市自殺対策計画がまとまり、11年度までのテーマとしては、「誰も大切な一人 いのちを支え合うまち あきしま」である。重点施策についても若者を対象とした自殺対策の推進となっている。亡くなる方の年齢は60歳以上が一番多いが、東京都の自殺数と比べたところ自殺死亡数のランクで一番厳しいのが20才未満であったので重点施策としたので、今後期待をしていく。今まで相談体制について件数は記載しているが、相談体制はとっている。ただ、どうしてもここで満足というのではなく難しい。何が死亡原因かは判断もしづらいので、健康課としてbになっているのはそのためではないか。【事務局】

☆牧野委員から市で出来ることはないのか、もう一度検討をとのことだが、意見の追加はあるか【金野委員長】

◆自殺に至るもう少し手前でケアをしないと自殺を食いとめられないと思っている。特に子どもが、子どもの精神科と大人の精神科の間の高校生に当たる子というのは、受診しづらい。15歳で小児は終了し、しかし18歳以上しか診察しないという心療内科もしくは精神科が多く、また思春期外来を設けているところは少ない。高校生を診る先生もいるが予約をとることすら難しいので、診察が遅れる。病院医療に繋がるのも遅れてしまう。各学校にカウンセラーがあり、その学校が病院を紹介してくれたりするが、正規のルートなのにあまり利用されないため、まず学校のカウンセラーを利用してみるよう必ず言うようにしている。自分で精神科に10件電話をかけて駄目でも、学校経由は入れたという話をよく聞く。それが周知されていない。精神的な相談は本当に身近に多い。自殺まで至るまでにどんどん悪くなる過程があり、どの年代でもその手前でケアができれば良い。ただ健康課できる分野があると思うので、とりあえずは今利用できる場所があり、学校のカウンセラーに親も相談できるということを周知するだけでも進められる。いきなり高校生を診る精神科を増やすことなどは難しいことなので、せっかく各学校に配置されているカウンセラーを通すと意外と予約が取りやすかったりする。【長谷部委員】

☆ぜひ府内で連携し、その学校側との連携を考えていただきたい。【金野委員長】

☆評価の決定： 優【金野委員長】

10配慮を必要とする人に対する支援と多様性を尊重する環境の整備 (NEW)

①高齢・障害等により配慮を必要とする人に対する相談支援

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	良	優	良	良	良	良

☆向井委員からは、包括支援センターの認知度が4割は低く感じるとあるがいかがか。【金野委員長】

◆今日不在の森川委員からも意見を聞きたいところであったが、相談支援や、地域包括支援センターの認知が広まらなければせっかく体制をとっていても活用されない。真に支援を求めている方に届かない。これは私の感覚として、4割はまだまだ促進していく必要があるのかと感じる。【向井委員】

☆認知度の調査の対象はどういう調査か。高齢者に限らず市民全員か。【金野委員長】

◇そうである。市民全体の抽出である。【事務局】

☆若い方も含むのか、それとも実際に支援を必要としている世代なのか。数字の意味合いが変わってくると

は思うが、確かに全体で4割というのは周知について努めていただきたい。周知について一層お願ひしたい。【金野委員長】

☆評価の決定： 良【金野委員長】

② ひとり親家庭等への支援の充実

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	良	優	優	優	優	優

☆委員の肯定的な意見としては、事業が充実している等の一方で、上川委員からは拡充できないかという意見であるがいかがか。【金野委員長】

◆昨年も緑会館のみ、もっと場所が多くあっても良いのではないか。【上川委員】

☆他の地区でも活動実施しているので他での実施は検討していないとあるが、ニーズ的には足りていないことはないのか。【金野委員長】

◇一定の子どもが参加しているとの話は聞いている。新たな参加者を取り込むための周知が必要なのか、また、新しい参加者を増やした場合会場も増やす必要性を感じることはある。【事務局】

☆森川委員からも市内の元学生の協力を得るというアイディアがある。【金野委員長】

◇中高生が小学生に教えている団体も活動している。【事務局】

◆ひとり親等は世帯支援が必要であり、すごく充実している。意外とそうではない家庭のお子さんが学校で問題行動を起こしたりする。複雑な家庭環境、親の無関心があり、ただお金を渡されている、自由に活動し、社会に出て非行に走るということもある。家庭環境によっては、両親揃っていても、支援が必要なお子さんはいるということだけ伝えたい。【長谷部委員】

☆確かに63番生活困窮世帯等とあり、支援が必要な子ども達にも多様なバックグラウンドがある。【金野委員長】

◆主要施策②に「等」が入っているので、そういう家庭も含まれているのであろうか。私も体感にはなってしまったが、長谷部委員の意見に賛成である。両親がいても、問題行動のある子もいるので、もしケアできるのであれば、ひとり親や生活困窮ではない世帯にも支援があれば良い。ただこれ自体そのような政策なのかなと思うと少し言いづらい。【牧野委員】

☆しかし63番は直接子供を支援する事業になので少し視野を広げて考える道はある。【金野委員長】

◆生活困窮者は金銭的な面であるが、共働き世帯で金銭的に余裕があっても親の無関心等がある。お金がある故に危険な場合もある。【牧野委員】

◇子ども達の心配な部分については、1階にあるこども家庭センターが対応している。要保護児童対策地域協議会を開催し、その中で虐待はもちろん、犯罪を犯した子、非行傾向で夜遅くまでフラフラしている場合等について担当者が、保護者の帰宅時間に合わせ訪問する等対応している。警察や児童相談所も対応し、ひとり親であれば男女共同参画センターも含め関連する部署が会議している。専門部会もあり、担当者レベルで相談することも行っている。危険があれば、本当にこども家庭センターに通報、相談していただきたい。「あの子が心配だ」という場合、虐待に限らず、非行に関しても対応している。そのために今年から母子保健も合わせてこども家庭センターが設置され学校等との連携もあるので、相談及び連絡いただきたい。【事務局】

◆非常に皆さんのがんが高く、意見が多く出ている、ここの部分の内容は、市の守備範囲でできる部分とよ

り上位の東京都や国のレベルになってくるものがあるのであるのではないか。やれることがあるのであれば、やれた方が良いが、意見を挙げても、実際市の中でもそこは難しい等事務局から伺いたい。【向井委員】

◇警察、児童相談所は都の管轄になり、地域の子ども食堂や学習活動のサポート団体等も踏まえて協力していく。抜け落ちてしまうところが出てくるようであれば、また検討を進めていかなければと考える。要保護児童対策地域協議会には民生委員も参加している。個人情報の共有が難しいがこの協議会によって要保護児童に対応しているところである。この委員会での意見も伝える。【事務局】

★今の議論の補足だが、いわゆる小中学校レベルは基礎自治体である市の担当になる。高校になると東京都も関わってくる。基礎自治体がまずは第一という事である。この問題ではネグレクトを包摂されるべきもので、実際にそういったターゲットが、いくつも散見されると思うので、ぜひ取り組みをさせていくべきだと強く同意したい。また、なぜひとり親と言うと、元々男女共同参画の中では母子家庭支援という項目であったが、今は両性となり、ひとり親家庭となった。でも実際に各委員それぞれが指摘しているように、多分この射程というのは、1人親だからではなくて、いわゆる家庭における子どもの様々な養育に関する問題として広い射程を求められてくる。目標10②も相当広いターゲットを、想定されなければいけない時代が来ているのであろう。当委員会以外の委員会もたくさんあり、それを射程に入れている委員会もある。ただ、共同参画が包括する家庭の問題でもある。当委員会が重視するという姿勢は結構大事。来年度の方からも積極的に意見いただき、引き続き取り組んでいただければ。【柴田副委員長】

☆市が体制を整えているということの情報提供があるだけで、有意義と思う。よろしくお願ひしたい。【金野委員長】

★子どもに届くとそれが救いになる可能性もある。【柴田副委員長】

☆評価の決定： 優【金野委員長】

11防災・環境分野等のまちづくりにおける多様な視点の反映

① 防災・復興体制のまちづくりにおける女性参画の推進

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	良	良	良	良	良	良

☆毎年課題となっているかと思うが、皆様の評価は良となっている。

担当課事業が一つで評価が b である。女性の割合を増やし意見が反映されるように、また若年層の参加も促すことも意見がある。課題と今後の予定はあまり述べられていない。様々な意見を反映していく必要がある。終わりはないので引き続き推進願いたい。【金野委員長】

☆評価の決定： 優【金野委員長】

② 地域防災活動における男女共同参画の推進

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	可	可	可	可	可	良

☆この項目が今回一番厳しい委員会評価となっている。担当課評価も防災安全課が c。女性委員の減少により c 評価となるが、実際は1.5%の減少である。委員の意見にも比率だけではわからない部分もある。0.1%でも下がったら評価を下げなければいけないのか。上川委員の質問の女性参加者の減少の理由については、各団体からの選出のためということであった。割合だけに目を向けると他力本願になってしまい、数字の低下のみで評価が下がるのかという難しい部分がある。報告書には具体的にこういう意見をもらえて非常

によかった等質的な面でのプラス材料を記載していただけすると評価につなげられると思う。【金野委員長】

◆避難所運営委員会に学校のPTAも含まれているが、減っている理由にPTA自体がなくなってきたことがあることが挙げられる。【長谷部委員】

☆本来、男女参画は多くの方に地域を支える役を担ってほしいという理念の下のものだが、なかなか難しくなっているという事であるという現状で、女性を増やすという以前にもっとベーシックなところで、立て直さないといけないという課題が浮かび上がっている。地域を支える担い手を得にくくなっているとは思うが、引き続き考えていただきたい。【金野委員長】

★今、能登で豪雨となっており、おそらく2回目の豪雨災害になる可能性もある。国道もいくつか止まっている。自分はまた被災地に行くことになると思うが、災害になってみないとわからない部分があり、被災の経験があれば市民も集まると思う。しかし経験がないとどうしても参加等しないということであるが、参加することが大切なので、啓発1本である。参加が少なくても必死にやる、訴え続けるというのはぜひ強く私も希望させていただきたい。この委員会からも懲りずに上げていきたい。【柴田副委員長】

☆厳しい評価となったが、引き続き取り組んでいただきたい。【金野委員長】

☆評価の決定：可 【金野委員長】

③都市計画・環境分野における男女共同参画の推進

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	良	優	良	良	良	良

☆比率だけではなく、積極的に意見を取り入れようとしている等の意見がある。引き続き様々な意見を取り入れていただきたい。【金野委員長】

☆評価の決定：良 【金野委員長】

12地域活動における男女共同参画の推進

①地域団体・社会団体等への活動支援

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	良	良	可	良	良	良

☆cの担当課評価の理由については、相談件数が減少であった。その一方「まちの活動」というページについては生活コミュニティ課に対して評価するコメントがある。地域団体、社会団体は、自治会とかボランティア団体等広い意味であるか。【金野委員長】

◇そうである。「まちの活動」は新しい事業となっており、今回当センター発行の「Hi, あきしま」でもインタビュー記事を掲載する予定。【事務局】

☆相談件数はボランティアをしたい人も、ボランティアの支援を受けたい人も双方であるか。【金野委員長】

◇そうである。【事務局】

☆広報誌でも取り上げられ、引き続き周知していただきたい。【金野委員長】

☆評価の決定：良 【金野委員長】

②地域活動等への男性の参画の推進

	長谷部委員	牧野委員	向井委員	森川委員	定森委員	上川委員
評価	優	優	良	優	優	優

☆長谷部委員からは部活動の地域移行についてコメントがある補足は。【金野委員長】

◆先週、アキシマエンシスにて部活動の地域移行に関する説明会が行われ、オンラインで参加をした。昭島市は教育委員会が関わっている。まだ始まったばかりで詳細についてはほとんど決まっていないという形だったが、日野市、八王子市ではもう進められており、国が取り組んでいるので、近いうちに昭島市も地域移行が進んでいく。今後おそらく体育会系の部活動が移行になった際に小、中学生に教えている指導者の方々が、地域移行する場で活躍できるであろう。他にも、経験者の方がいれば男性も女性も含め、参加できるのではないかと期待。また、部活動は体育系だけではなくプログラミング等も含まれているそうなので、比較的男性が得意とする分野かなと思うので、男性の参加により活動がもっと活発になるのでは。今年度、モデルと部活動が決まる。先行している近隣市があるので、良いところを取り入れて、改善していくべき。今後に期待。【長谷部委員】

◇説明会では批判的な意見も多く、まだ何も決まってなかつたので様々な問題点が出た。習い事とは違う地域への移行であり、子ども・学校の意見、地域の状況を踏まえ協力をという説明会であった。令和8年度から始め13年に移行するので、今の中學1年2年はもう卒業し、関係がないという保護者の意見もあつたが、検討が進められ、地域力で協力いただき、みんなで昭島の子ども達をどう育てるか。どういう興味があつてどんな種目をやりたいのか、学校だけではできない色々な種目など検討していくという話であった。委員の意見のように期待できる事を指導課にも伝えていく。【事務局】

◆今後、学校部活動の地域移行も報告書に組み込まれれば、前進できるのではないか。【長谷部委員】

☆向井委員の意見のように、男性の参画の推進という項目だが、あまり男性の参画がどう推進されたのかということに関して、説明に反映されてない印象を若干受けた。それでも取り組みとしては委員が評価しているので、評価を下げるわけではない。今後全体の目標との関連を踏まえていただきたい。【金野委員長】

☆評価の決定： 優 【金野委員長】

3 その他

◇次回の委員会は、10月8日（水）開催である。その際は、事前に前回と今回の委員会の意見を反映させた総合的な評価及び提言のまとめを作成し、報告書の内容についてご審議をお願いする。10月28日に委員長から市長への報告を予定している。引き続きよろしくお願いしたい。【事務局】

☆それでは、第6回の推進委員会を終了する。次回もどうぞよろしくお願ひしたい。ありがとうございました。【金野委員長】